

川崎市におけるバリアフリー調査と連携した データ作成・利活用に関する実証

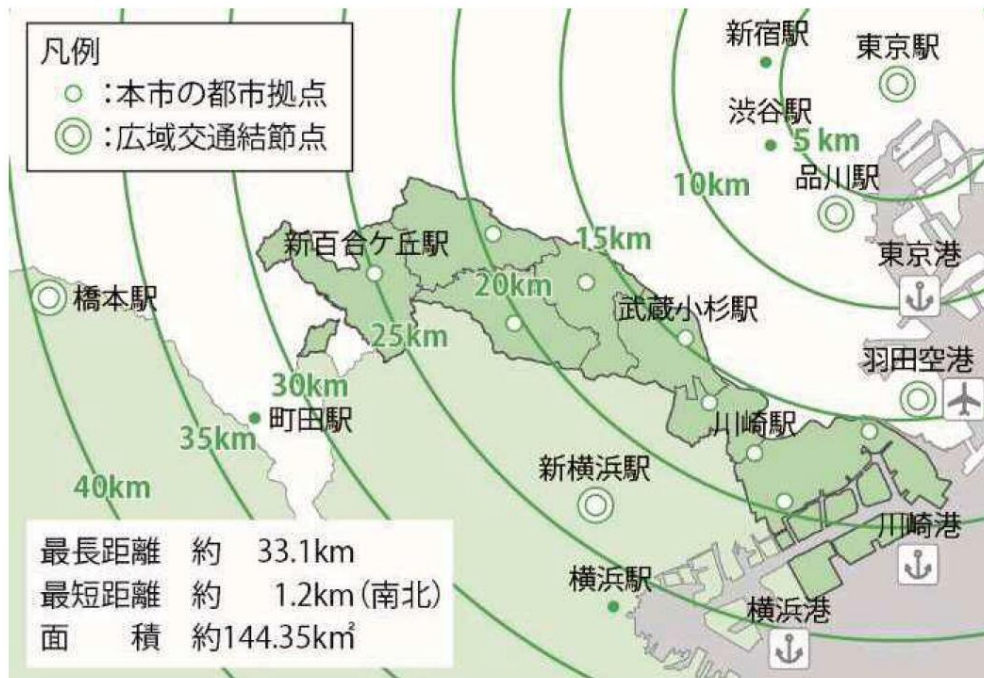
成果報告

2019年3月8日

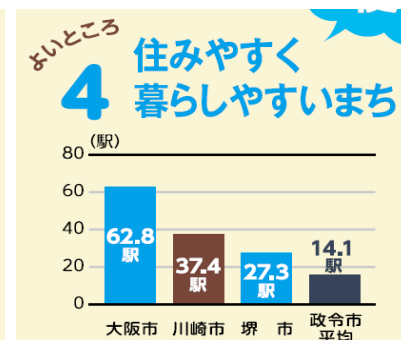
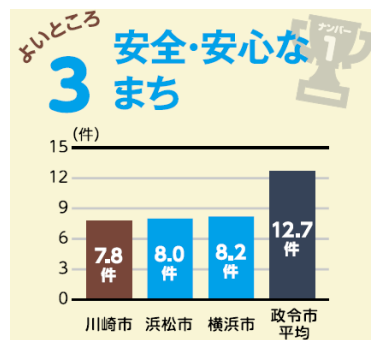
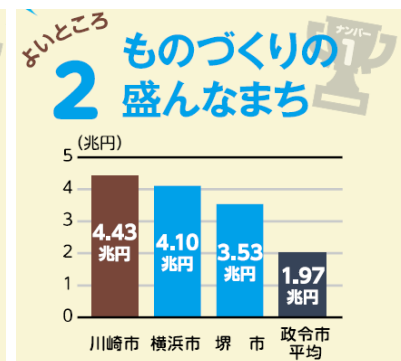
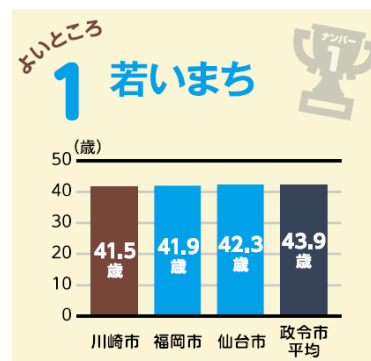
1. 川崎市の概要

- 川崎市は、首都圏の中心部に位置し、北は多摩川を境に東京都に、南は横浜市に隣接している。市域は、臨海部から多摩川上流に向かい南東から北西に細長い地形となっている。
- 羽田空港に隣接するとともに、品川駅や新横浜駅などの広域交通結節点に隣接し、地理的な優位性を備えた地域となっている。
- 川崎市は、ほかの政令市に比べ、平均年齢が若く、ものづくりが盛んで、安全・安心なまち等の特徴を有している。

<川崎市周辺の状況>



出典：川崎市都市計画マスタープラン



出典：川崎市総合計画 (PR版)

2. 既存のバリアフリー調査の状況

2-1. 既存のバリアフリー調査(歩行経路)の状況

- 川崎市は、バリアフリーマップ作成のために歩行経路のバリアフリー調査は実施していない。
- バリアフリー基本構想の策定時にまち歩き点検を実施し、駅周辺の経路のバリアフリー状況を確認している。

＜まち歩き点検時の調査票＞

対象箇所	点検項目		意見等	状況	対応
歩道の構造	幅員	2.0m以上		○	-
	段差	2cm		○	-
	傾斜	問題なし		○	-
歩道の路面	誘導用ブロック	有		○	-
	平坦性	問題なし		○	-
	滑りやすさ	問題なし		○	-
	グレーチング	無		/	/
路上施設	電柱・照明・標識	有		○	-
	車止め	有		○	-
	植栽	有		○	-
	その他	-		/	/
障害物	放置自転車・違法駐車	有	歩道に放置自転車が多く迷惑	△	◎
	看板・商品	無		○	-
	出入口傾斜板	無		/	/
	その他	無		/	/
横断用施設	横断歩道	有	一部音響をつけてほしい	△	◆
	信号機	有		○	-
	歩道橋	無		/	/
休憩施設	ベンチ等	-		/	/
その他				/	/
その他参考とする意見等	一部視覚障害者誘導用ブロックの途切れている箇所あり				
	一部陥没している箇所がある				
	看板が視覚障害者誘導用ブロックに近接している				
	自転車分離帯を有効活用してほしい				

＜まち歩き点検の項目と内容＞

点検項目	点検内容
幅員	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー法に基づく道路構造基準を参考とし、歩道2m(1.5m※)以上を目安とし、路線ごとに確認。 ・まち歩きの結果として意見(気づき)を記録。
傾斜	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー法に基づく道路構造基準を参考とし、5%(8%※)以下を目安とし、路線ごとに確認。 ・まち歩きの結果として意見(気づき)を記録。
段差	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー法に基づく道路構造基準を参考とし、横断歩道への接続部分の段差は2cmを目安とし、確認。 ・まち歩きの結果として意見(気づき)を記録。
信号機	<ul style="list-style-type: none"> ・信号機の有無を記録。 ・まち歩きの結果として意見(気づき)を記録。(例:音響機能があると良い。等)
誘導用ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・誘導用ブロックの有無を記録。 ・まち歩きの結果として意見(気づき)を記録。

※市街化の状況や地形の状況等によりやむを得ない場合

状況) ○:問題なし △:問題あり /:施設なし

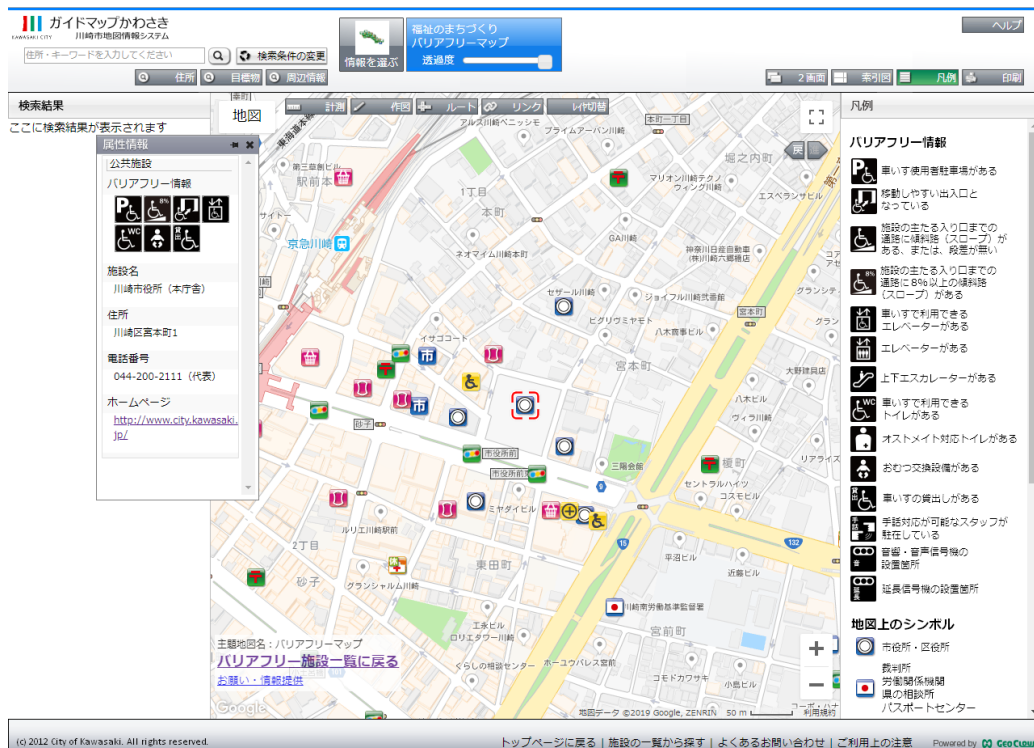
対応) ◎:事業化 ◇:継続的対応 ◆:中・長期的対応 ×:対応困難 /:施設なし

2. 既存のバリアフリー調査の状況

2-2. 既存のバリアフリー調査(施設)の状況

- 川崎市では、市域全域の公共施設等のバリアフリー状況を確認する調査を実施している。最近では、平成23年に調査を実施済み。
- 調査結果は、川崎市が運営する住民向けGIS「ガイドマップかわさき」に掲載している。

<ガイドマップかわさきと掲載項目>



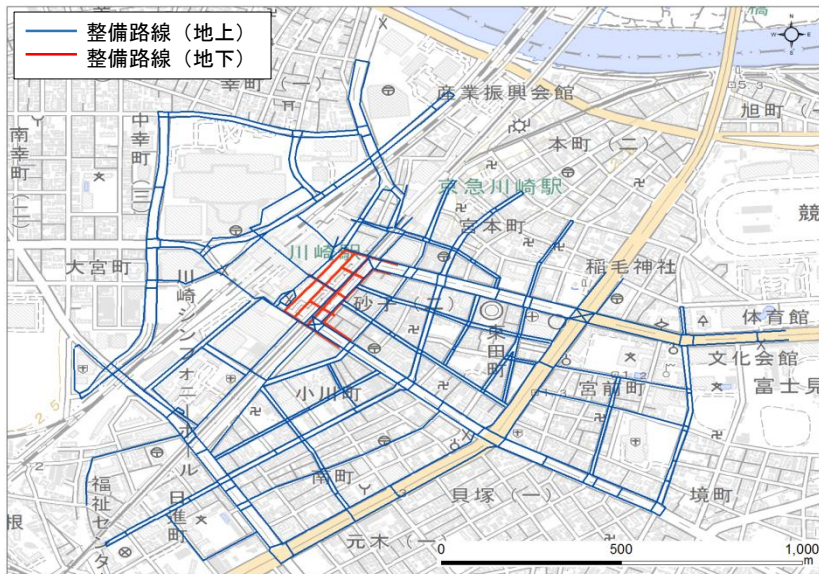
情報項目	属性情報
1 施設種別	1：市役所・区役所 2：裁判所、労働関係機関、県の相談所、パスポートセンター 3：警察署 4：行政サービスコーナー、主な市の施設 5：市立病院、6：休日急患診療所 7：救急病院・診療所、8：保健福祉センター 9：高齢者福祉施設、福祉/バ、障がい者福祉施設、その他の福祉施設、10：文化施設 11：銀行 13：郵便局、14：公園・市民健康の森 15：バリアフリー対応信号機
2 名称	
3 所在地	
4 電話番号	
5 トイレの有無	重いずで利用できるトイレがある オストメイト対応トイレがある おむつ交換設備がある
6 エレベーターの有無	重いずで利用できるエレベーターがある エレベーターがある
7 エスカレーターの有無	上下エスカレーターがある
8 身障者用駐車場の有無	重いず使用者駐車場がある
9 出入口のバリアフリー化の有無	移動しやすい出入口となっている 施設の主たる入り口までの通路に傾斜路（スロープ）がある、または、段差が無い 施設の主たる入り口までの通路に8%以上の傾斜路（スロープ）がある
10 FAX番号	
11 車いすの貸出	車いすの貸出しがある
12 手話対応が可能なスタッフの有無	手話対応が可能なスタッフが駐在している

3. 歩行空間ネットワークデータ等の整備

○歩行空間ネットワークデータ

(整備延長：35km)

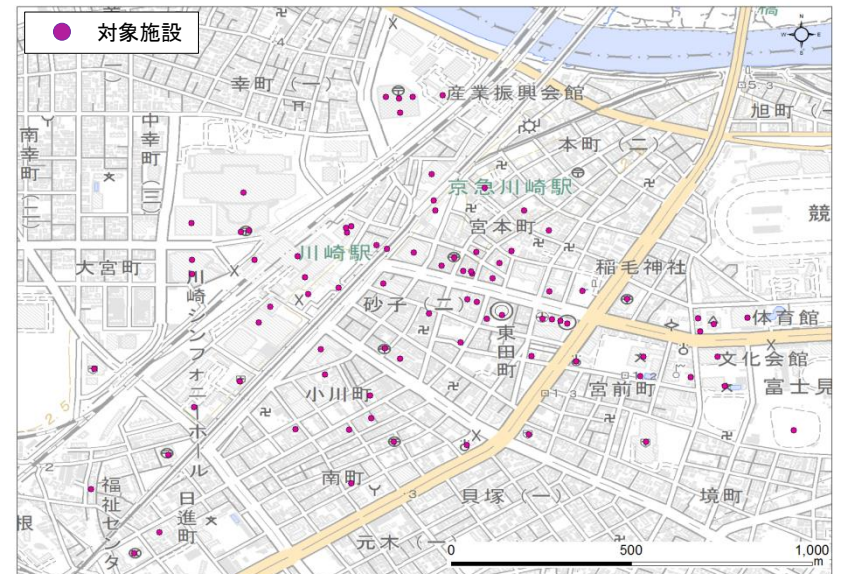
- ・川崎駅バリアフリー基本構想の重点整備地区内の経路を中心に、歩行空間ネットワークデータを約35km整備。
- ・歩行空間ネットワークデータの整備路線は、公共施設や障害者等が多く利用する施設間の移動を考慮し設定。



○施設データ

(対象施設：92施設)

- ・公共施設のほか、銀行やホテル等、多くの人々が利用する施設を92施設選定し調査票を配布。オープンデータ化が困難と回答のあった9件を除き、83件をデータ化。
- ・施設のバリアフリー調査は、従来の調査項目を踏襲するとともに、データ整備仕様に対応するように配慮し、調査項目を設定。



4. 歩行空間ネットワークデータの多用途利用の検討

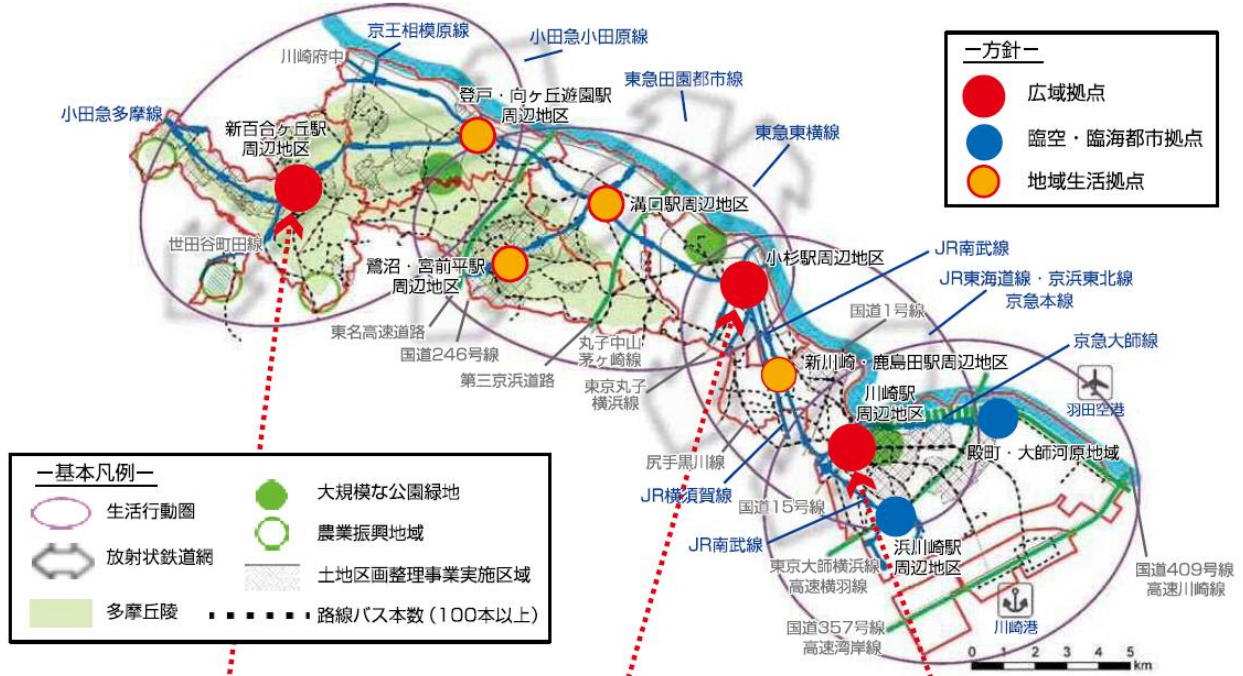
- 本事業で整備した歩行空間NWDの利用可能性について庁内の各部署に意見を収集。
- その結果、歩行空間NWD等を「道路管理」「福祉」「防災」分野への活用の可能性があるとの意見があった。

分野	用途
道路管理	<ul style="list-style-type: none">・歩行上のバリア箇所が定量的に分かるため、道路修繕に必要な工事予算確保に向けて、内部での財政部門へ説明に活用可能。
観光	<ul style="list-style-type: none">・行政サービスコーナーに設置している観光案内板に、歩行空間ネットワークデータ等を追加したバリアフリーマップの情報を掲載することで、障害者等の移動支援に役立つと考えられる。今年度整備した情報を追加する。・川崎市オリパラ室で検討している市内の飲食店のバリアフリー対応状況を公表するマップと歩行空間ネットワークデータ等を組み合わせることでより一層の移動支援に役立つと考えており、今後活用を検討する。・歩行空間ネットワークデータ等の幅員、段差、勾配等の情報とともに車いす使用者の方が写った通行可否が分かるイメージ写真などを加えることでより活用の幅が広がる。
防災（危機管理室）	<ul style="list-style-type: none">・駅前の情報は、帰宅困難者となった高齢者や障害者を一次滞在施設へ誘導する、または自身で選ぶ際に、活用可能。・災害時ではなく平常時に、高齢者や障害者が、自分で通られるルートを確認してもらうことに活用可能。・市域全域で情報が得られるのであれば、自治会、町内会の方が、自分の地域の避難場所まで、どのルートを通るのか検討する際に活用可能。

5. 次年度以降の取り組み

○今年度データ整備を実施した川崎駅周辺地区のほか、川崎市総合計画で広域拠点として位置付けている「新百合ヶ丘駅周辺地区」「小杉駅周辺地区」の歩行空間ネットワークデータ等の整備に取り組む。

○整備したデータは、「ガイドマップかわさき」に掲載する等、歩行者移動支援サービス以外の多用途への活用を引き続き検討する。



「新百合ヶ丘駅周辺地区」
「豊かな自然環境」と「文化・芸術」が息づく、魅力にあふれた広域拠点です。
(写真：川崎市アートセンター)



「小杉駅周辺地区」
都市型の住宅や、商業施設、企業が集う「便利」で「活気」にあふれた広域拠点です。



「川崎駅周辺地区」
多様な機能が集積し、本市の「玄関口」としてふさわしい活力と魅力にあふれた広域拠点です。